


朝日工業グループレポート
2018





地球は動いている。

朝日は、今日も明日を生み出していく。



わたしたちが目指すこと。

それは、過去と現在、現在と未来が
有機的につながっていく豊かな資源循環型社会の実現です。

そのために、わたしたちは資源循環の環の真ん中で
資源の探索・活用、再生の技術力を通して
地球の力を、明日の力に変えていくドライバーで
ありたいと考えています。

その活動領域は、鉄鋼、農業といった
社会に新たな未来を拓いていく分野。

地球が動き、世界に新しい明日がやってくるとき。

わたしたちは、いつでも資源の新しい可能性を
生みだしていくリーディングカンパニーでありつづけます。

経営理念

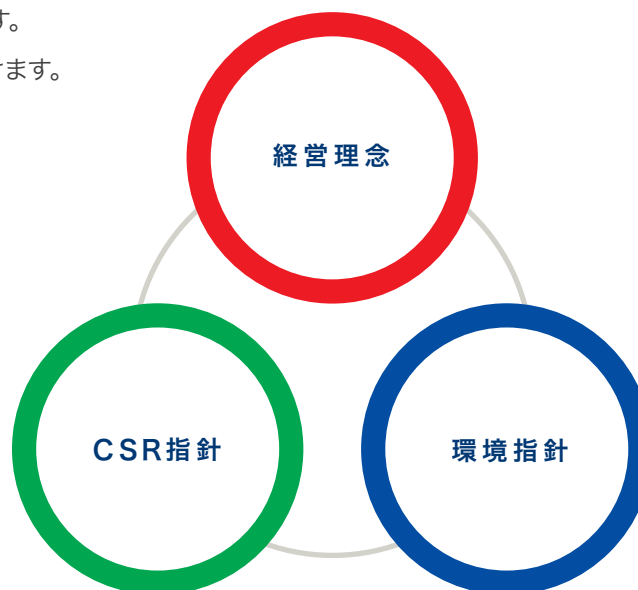
誠実で、公正、公平、誰からも愛される会社であり続けます。
 良い製品、良いサービスを提供し、地球環境に貢献し続けます。

CSR 指針

社会への貢献、感謝、恩返しを大切にします。

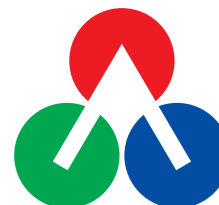
環境指針

環境負荷低減、地球温暖化防止、ゼロエミッション
 を通して、環境へ貢献します。



コーポレートマーク

コーポレートマークは、朝日工業の「A」の文字を中心に、「太陽」、「緑」、「地球」をイメージし、経営ビジョンである地球環境への貢献を表したものです。



TOP MESSAGE	4
沿革	6
中期経営計画・2017年度実績	7
中期経営計画(2016-2018年度)	8
2017年度実績	11
事業概要	13
鉄鋼建設資材事業	15
碎石砕砂・マテリアルリサイクル事業(株上武)	19
農業資材事業	21
環境・ガバナンス・社会貢献活動	27
環境	28
ガバナンス	33
社会貢献活動	36
財務データ・会社情報・投資家情報	37
財務データ	38
会社情報	41
投資家情報	42

TOP MESSAGE

朝日工業グループは、「地球環境や地域社会への貢献」を大切に、「みなさまから愛され続ける会社」でありたいという思いのもと活動し、創業80年を超える業歴を刻んでまいりました。

鉄スクラップからビルや橋、高速道路に使用される頑丈な鉄筋を作り、家畜糞、鶏の羽、油粕、食品・飲料工場の排水などから安全で良質な有機質肥料を作り続け、資源循環型社会の実現を目指しています。

当社グループは東日本大震災を起因とする厳しい事業環境や、2014年の雪害による製鋼工場の操業停止などの苦境を乗り越え、2014年度以降3期連続で黒字を確保し、V字回復を果たしました。そして2020年の当社グループのあるべき姿を見据えて、2016～2018年度の中期経営計画「ASAHI 2018 プロジェクト」(中計)を策定し、新たな方向性を明確にしました。

ASAHI 2018 プロジェクト

- Ambition** … 大いなる志をもって
- Speciality** … スペシャリティ分野のリーダーになるべく
- Action** … 直ちに行動を起こします。
- High quality** … 高品質へのこだわりを持って
- Innovation** … 不断の変革に挑戦します。

かかる中、中計の中間地点となる2017年度ですが、主副原料価格の高騰が製品価格の転嫁に追いつかず不振が続いた鉄鋼部門の大幅な減益を、他部門の利益でカバーできず、大変厳しい結果となりました。

当社グループを取り巻く事業環境は大きく動いており、最近鉄鋼部門では、人手不足を背景とする工期短縮の要因から、RC(鉄筋)造からS(鉄骨)造へ建設方式がシフトするという構造変化がすでに始まっていると認識しております。

農業部門においても、全農改革に伴う肥料の銘柄集約・競争入札がスタートし、今まさに構造変化は始まったと考えます。

この様な大きな構造変化に対応するため、中計に掲げたスペシャリティ分野へのシフト、すなわち鉄鋼部門では、高強度・ねじ節鉄筋へのシフトに加え、特殊鋼を含む構造用鋼の強化、農業部門では、有機質肥料への一層のシフトを全速力で実行してまいります。

ステークホルダーのみなさまにおかれましては、引き続きご支援をくださいますようお願い申し上げます。



2018年7月
代表取締役社長

村上政徳

さあ、価値ある資源循環型社会へ

資源循環型社会の実現を目指す朝日工業グループの活動は、
実は、もう、みなさまの生活の中でひとつひとつ息づいています。

その活動領域は、いま、

「鉄鋼建設資材事業」

「砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業」

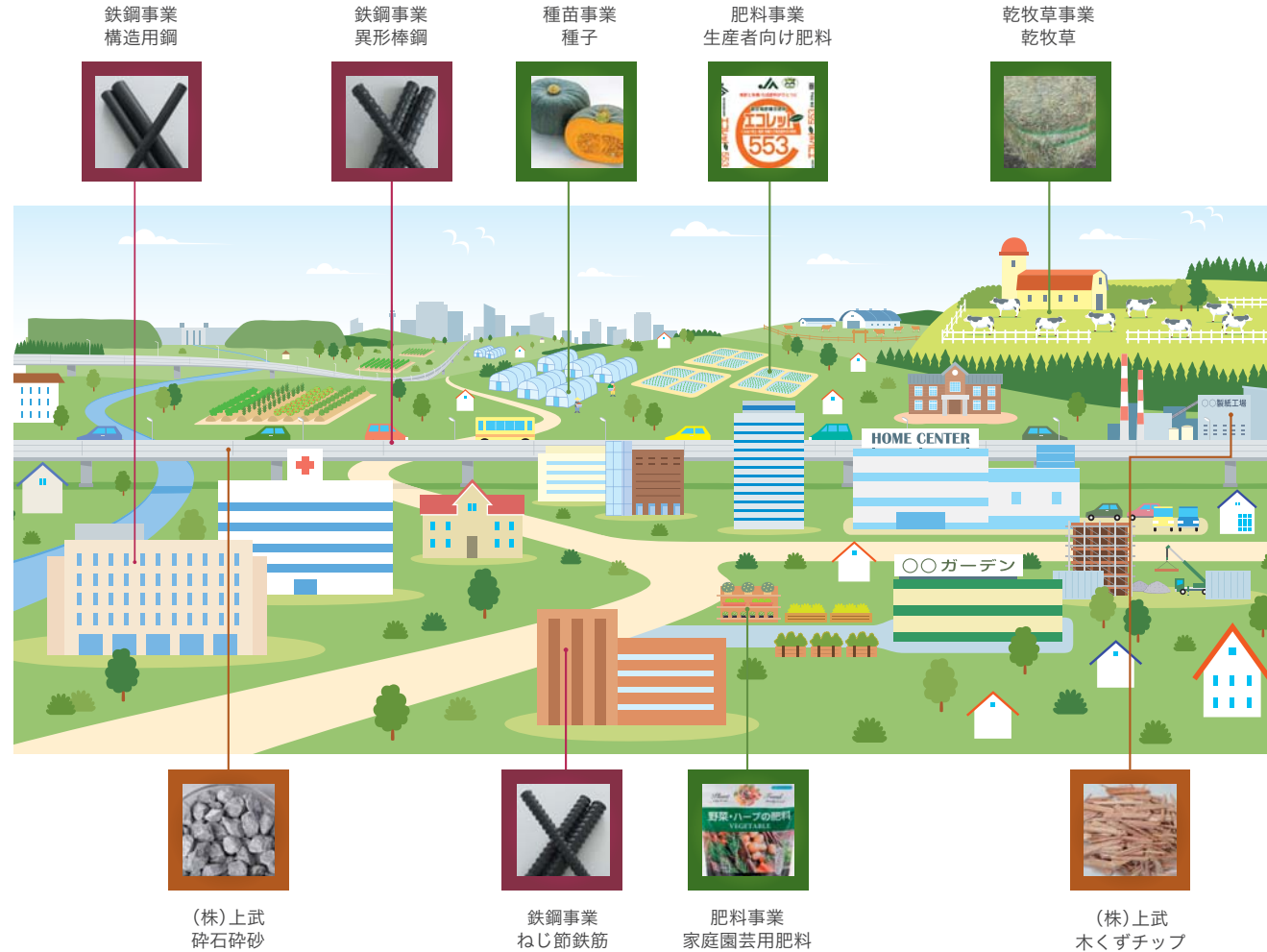
「農業資材事業」

に広がっています。

価値ある資源循環を

かたちにしていく活動を、

これからも、あらゆる領域でつぎつぎと。



沿革

- 1935年 朝日化学肥料 株式会社 創立 肥料事業の前身(兵庫県尼崎市)
- 1936年 日本ニッケル 株式会社 創立 鉄鋼事業の前身(埼玉県児玉郡)
- 1960年 朝日化学肥料 株式会社 が日本ニッケル 株式会社 を吸収し
社名を西武化学工業 株式会社 に変更、
鉄鋼と肥料というビジネスモデルが誕生
- 1992年 現在の朝日工業 株式会社 設立
- 1995年 Johnson Asahi Pty.Ltd.(ジョンソン朝日)を合併で設立
(オーストラリア、ビクトリア州)
- 2003年 セゾングループより独立
- 2005年 JASDAQ証券取引所に上場(現東京証券取引所JASDAQ)
- 2011年 萊陽龍大朝日農業科技有限公司を合併で設立(中国、山東省)
- 2016年 中期経営計画発表
「ASAHI 2018 プロジェクト」



MEDIUM-TERM MANAGEMENT PLAN FINANCIAL RESULTS FOR FY2017

中期経営計画・2017年度実績

中期経営計画 (2016 - 2018年度)

朝日工業グループは2016年4月に中期経営計画「ASAHI 2018 プロジェクト」(2016~2018年度)(中計)をスタートさせました。

2017年度までの2年間で、経営基盤強化戦略および関係会社の事業戦略については、施策を早期に実行し、導入した仕組みや制度の円滑な運用を行うことができました。一方、主力事業である鉄鋼事業、農業事業は、ともに構造変化に直面する中、目標を下回る結果となりました。

中計最終年度となる2018年度は、中計で掲げている「スペシャリティ分野」へのシフトを強力に進め、構造変化に確実に対応していきます。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピック以降も存在感のある企業であり続けるため、常にイノベーションとチャレンジを意識し、企業価値向上を目指します。

基本方針

資源循環型社会の担い手として 『スペシャリティ(明確な強み)』をもつ会社へ

高品質へのこだわりをもって技術・開発力を更に強化し
『スペシャリティ分野(強みを有する分野)』のリーダーを目指す。

基本戦略

事業戦略

- 技術・開発力に裏打ちされた製品の製造、販売にリソースを集中し、「スペシャリティ分野(強みを有する分野)」を強化
- 原単位低減、生産性向上等、本源的なコストダウンの追求

経営基盤強化戦略

- 監査等委員会設置会社への移行、組織改正、会議体見直し等によるガバナンス体制の刷新
- 執行役員制度の導入、人事制度の改定等による「人財」基盤の充実

財務戦略

- 安定収益による有利子負債圧縮

2016-2017年度実績

事業戦略

【鉄鋼建設資材事業】

特殊鋼生産再開

【碎石砕砂事業】

新鉱区取得および原石運搬道路造成

【農業資材事業】

(肥 料) 集中購買により関東・東北のシェア確保
(種 苗) 上海恵和種業有限公司と独占販売契約締結
株式会社ナコスと独占パートナー契約締結
(乾牧草) ジョンソン朝日販売数量10万トン達成
ジョンソン朝日用地取得、新倉庫建設

経営基盤強化戦略

- 監査等委員会設置会社へ移行
- 執行役員制度導入
- 新人事制度導入
- 朝日ビジネスサポート㈱を立ち上げ、朝日工業の管理業務などを移管
- ダイバーシティ(多様性)推進(障がい者雇用、外国人スタッフ受入)
- グループ内制度・システムの統一化(人事制度、経理システム)
- 環境ソリューション事業からの撤退

財務戦略

金利上昇リスクヘッジの観点から、長期固定金利での調達を推進

経営指標	2016年度実績	2017年度実績	2018年度計画 (2018年5月発表)
経常利益率(%)	3.4	△0.2	2.6
ROE(%)	10.2	-	9.2
純有利子負債※(億円)	73	71	79
長期固定金利調達比率(%)	27.3	60.9	78.9

※ 純有利子負債 = 有利子負債 - 現預金

2018年度計画

変革のスピードアップ

鉄筋需要減少を見据えた鋼種構成比変革

- 特殊鋼生産の本格化
- OEM推進

販価引上げ

(肥 料)メーカー集約に勝ち残る収益構造改革

- 有機質肥料へのシフト加速
- 他社提携による事業拡大
- 業界水準を上回るコストダウン

(種 苗)黒字化

(乾牧草)ジョンソン朝日の工場集約

新中計の策定

事業ポートフォリオ

砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業 ((株)上武)

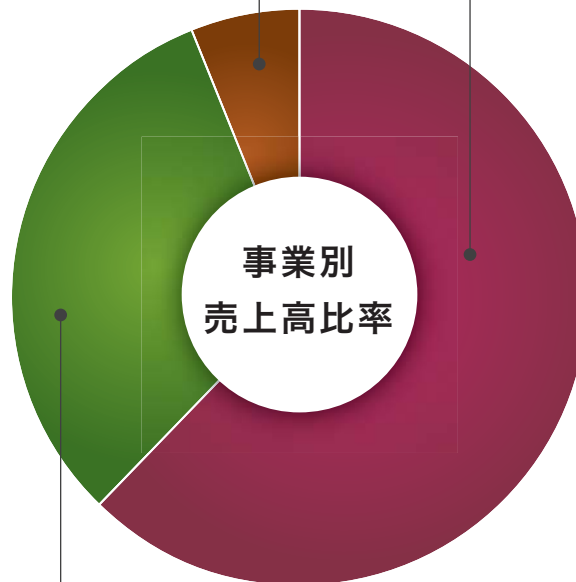
埼玉県No.1 砕石メーカーの地位堅持

新砒区確保によるシェア拡大

セグメント別売上高およびセグメント利益 (百万円)

砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業	2016年度実績	2017年度実績	2018年度計画
売上高	2,095	2,364	2,500
セグメント利益	127	139	150

基盤事業



鉄鋼建設資材事業

基盤事業

関東地区小棒生産販売数量トップグループの地位確保・堅持

高強度・太径・ねじ節鉄筋へのシフト

電力原単位の低減

製品ポートフォリオの見直しによる生産性向上

セグメント別売上高およびセグメント利益 (百万円)

鉄鋼建設資材事業	2016年度実績	2017年度実績	2018年度計画
売上高	17,452	20,995	26,500
セグメント利益	1,318	85	1,150

農業資材事業

種子と牧草というスペシャリティを持った肥料メーカーとしての発展

肥料事業

基盤事業

粒状有機質肥料の製造・販売数量拡大

3工場一体運営による生産効率化

種苗事業

挑戦事業

自社品種の開発と国内外への

販売拡大

乾牧草事業

収益事業

ジョンソン朝日

との一体運営

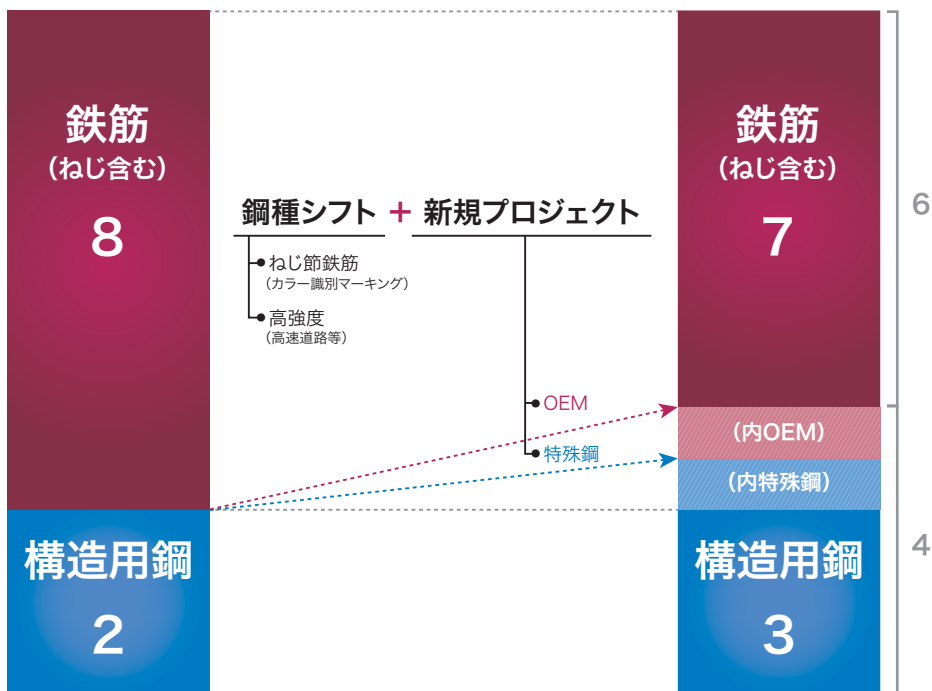
セグメント別売上高およびセグメント利益 (百万円)

農業資材事業	2016年度実績	2017年度実績	2018年度計画
売上高	12,723	12,464	13,500
セグメント利益*	740	808	900

*持分法適用会社である蒙州朝日の利益を含む

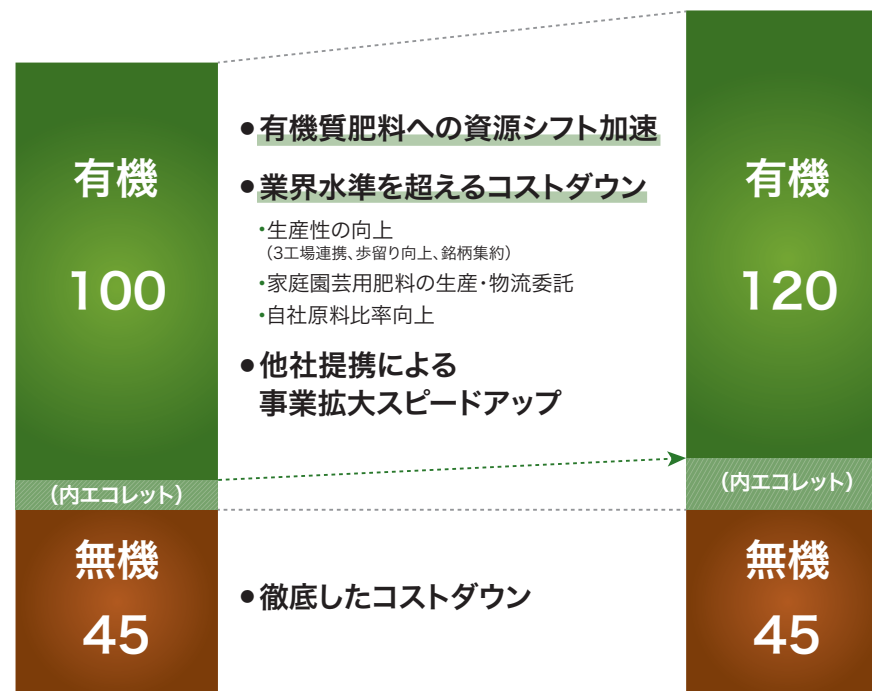
鉄鋼建設資材事業

鉄筋需要減少を見据えた鋼種構成比変革



農業資材事業(肥料)

メーカー集約に勝ち残る収益構造改革



※数字は現状の有機肥料販売数量を100とした時の指数

2017年度実績

連結実績

主力の鉄鋼建設事業の不振を他事業でカバーできず四期ぶりの赤字

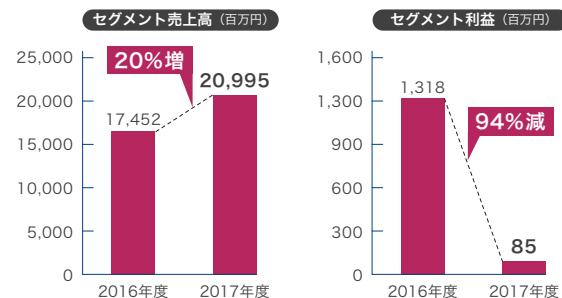
(百万円)

	2016年度	2017年度
売上高	32,354	35,878
営業利益	1,200	△64
経常利益	1,115	△74
当期純利益	820	△362
総資産	27,507	30,514
純資産	8,404	7,872
自己資本比率 (%)	30.6	25.8
経常利益率 (%)	3.4	△0.2
ROE (%)	10.2	—
純有利子負債※1 (億円)	73	71
配当 (円)	30	10

※1 純有利子負債=有利子負債-現預金

セグメント情報

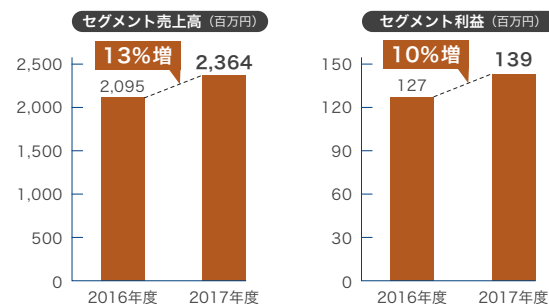
■ 鉄鋼建設資材事業



増減理由

- 販売価格上昇により増収
- 主副原料価格上昇に伴うコストアップにより大幅減収

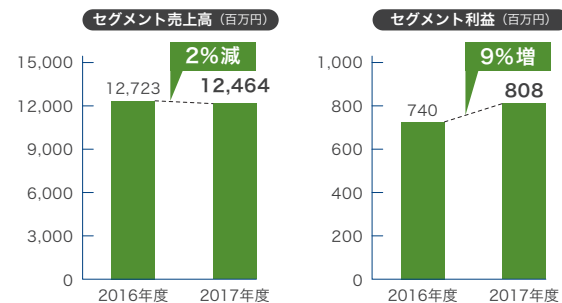
■ 砕石碎砂・マテリアルリサイクル事業



増減理由

- 販売先拡大および生産性向上により増収増益

■ 農業資材事業



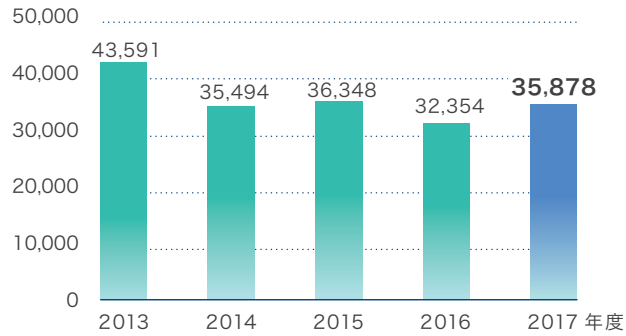
増減理由

- エコレットは販売拡大も受託生産減少により売上は微減
- 豪州牧草事業の中国などへの販売数量増加により増益

財務ハイライト (連結)

売上高

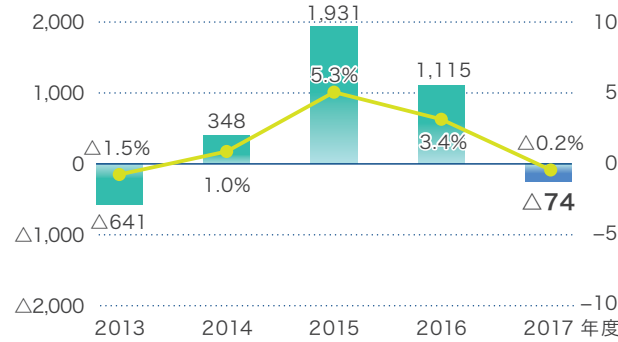
百万円



経常利益

百万円

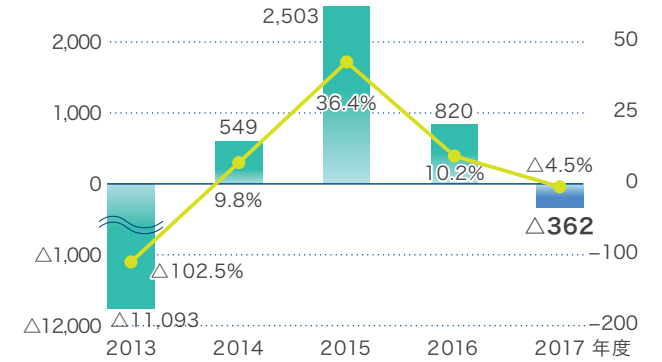
経常利益率 (%)



当期純利益

百万円

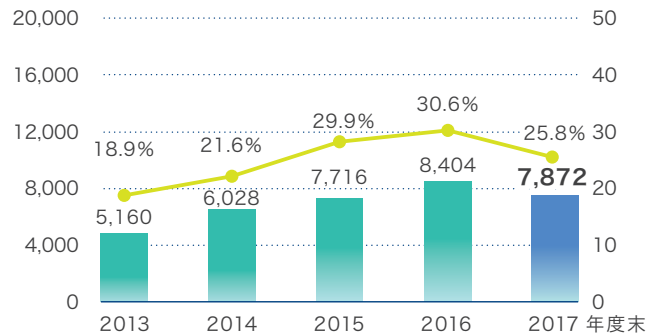
ROE (%)



純資産

百万円

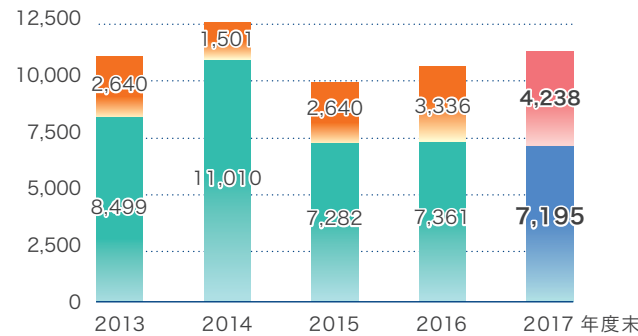
自己資本比率 (%)



純有利子負債

百万円

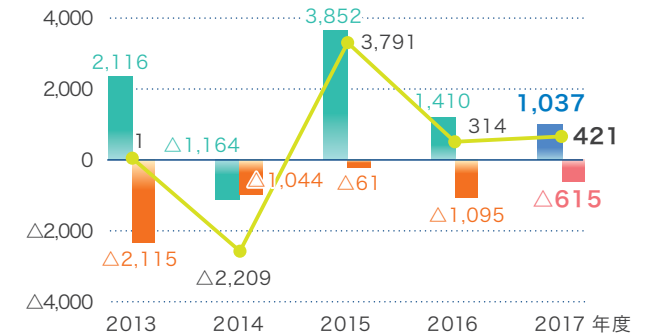
純有利子負債 現預金



キャッシュフロー

百万円

営業CF 投資CF フリーCF



OUR BUSINESS

事業概要



(株)上武



埼玉事業所



千葉工場



関西工場(滋賀県)



萊陽龍大朝日農業科技有限公司



ジョンソン朝日



鉄鋼建設資材事業

スペシャリティ分野へシフトし、構造変化に対応

朝日工業は、鉄スクラップを主原料として鉄筋・ねじ鉄筋や構造用鋼などの鉄鋼製品を製造する電気炉メーカーです。当社製品は、環境に配慮した製造設備と厳しい品質管理によって製造され、鉄筋・ねじ鉄筋は生活基盤となる建築・土木工事に、また、構造用鋼は建築・土木資材や機械加工部品などに使用されています。

常にお客様に必要とされるメーカーであり続けるために、マーケットニーズに対応した製品をお届けすると同時に、資源循環型社会の実現を目指しイニシアティブを発揮していきます。

高強度鉄筋の拡充

高強度製品のフルラインナップによる
高層建築や耐震構造ニーズへの対応

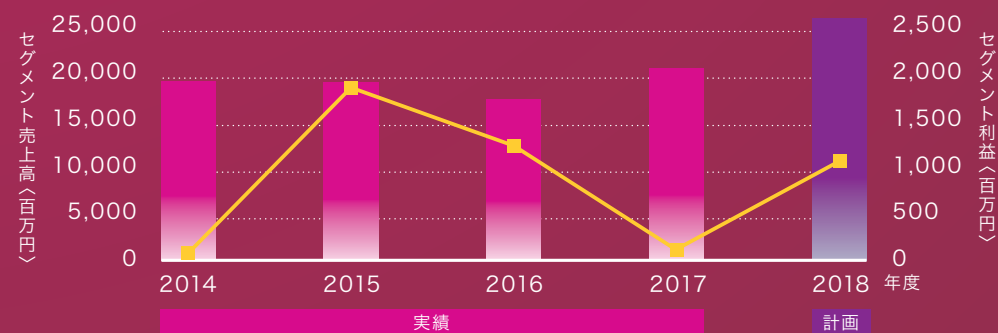
ねじ鉄筋の強化

需要変化への迅速対応
作業性向上・工期短縮など
建築分野への貢献

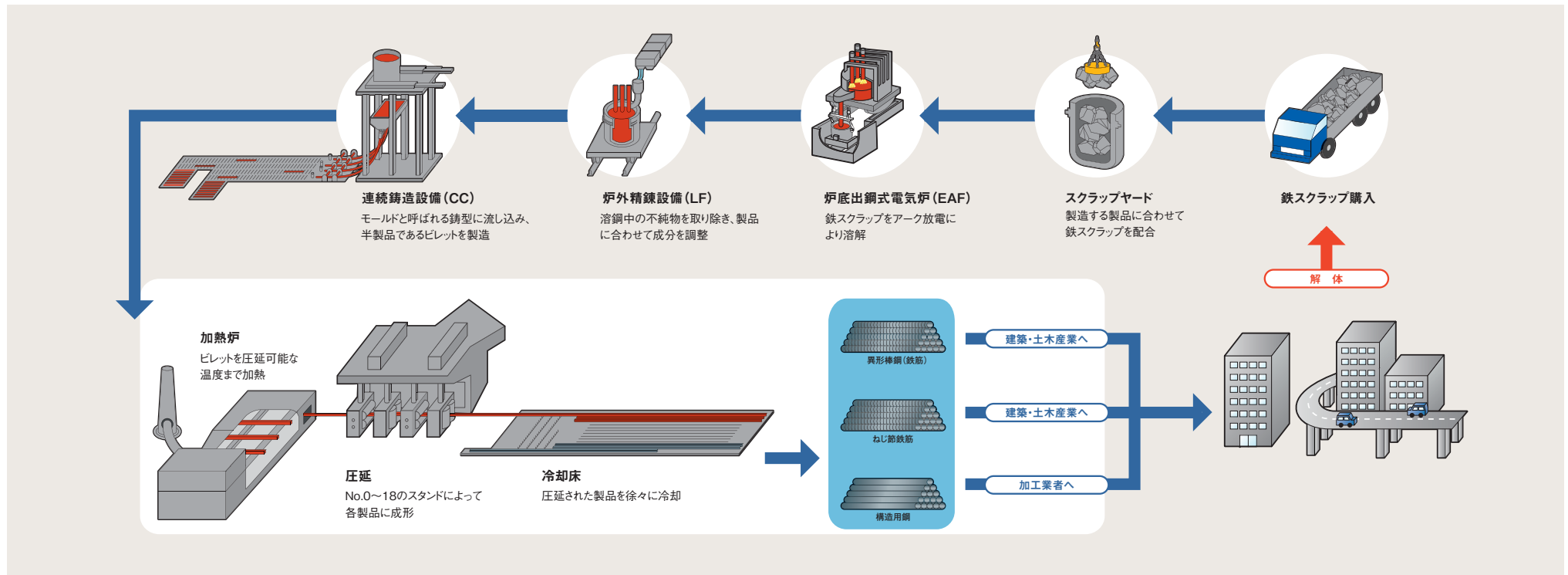
特殊鋼生産の本格化

販売アイテム・エリアの拡大

業績と計画



製造工程



品質管理

高精度の電子顕微鏡によるマイクロレベルの品質管理方法により、品質の保証体制を万全なものとしています。また、1994年に普通鋼電炉メーカーでは初めて品質ISOを取得しました。2018年4月には最新の規格である品質ISO9001:2015への移行を完了し、ユーザーからの信頼を確実なものとしています。



マイクロスコープ



引張試験



酸洗

製品

異形棒鋼（鉄筋）

異形棒鋼は、マンションやオフィスビルなどの建設工事や高速道路、新幹線の橋脚部分に数多く使用されています。当社は、細いサイズから太いサイズまで製造・販売をしている数少ないメーカーです。東京駅や首都高速道路などでも当社の製品が使用されています。



ねじ節鉄筋「ネジエーコン」

ねじ節鉄筋は、ネジ状の節をしている鉄筋で、機械式継手により鉄筋同士を接合するため、工期短縮や天候に左右されにくいというメリットがあります。また、スクリーブプレート工法（機械式定着）を用いるため、過密な配筋が避けられ施工の合理化などが図れます。機械式継手と機械式定着は簡単な講習を受けることで施工が可能となることから、ニーズは高まっています。

ネジエーコンは高強度製品であるUSD590A、USD590B、USD685A、USD685B、USD980の大臣認定を取得しています。



鉄筋の折り曲げ定着の代わりとして取り付けることで、鉄筋の定着性能を保持します。当社のスクリーブプレート工法は、日本建築センターの評定を取得しています。

カラー識別マーキング設備（2018年導入）



※この写真はイメージ図です。

現場作業者などがねじ節鉄筋の鋼種・サイズを簡単に識別でき、配筋ミス防止に繋がります。

構造用鋼

構造用鋼は、建築・土木資材から機械部品など幅広い分野の製品に生まれ変わります。空港などの滑走路の補強材として、また、大型ショッピングセンターの基礎部分、倉庫・プレハブなどに使用されています。



ねじ切り加工

特殊鋼

特殊鋼は、ニッケルやクロムなど添加する元素によって硬度、強度、粘り強さ、耐摩耗性などの特性が増し、自動車、建・産機向け部品、作業工具など、さまざまな分野で使用されています。

2014年度から生産を休止していましたが、2017年度に再開し、2018年度は設備を増強することにより数量の拡大を計画しています。



作業工具



歯車（スプロケット）



フック



碎石碎砂・

マテリアルリサイクル事業

(株式会社上武)

インフラ整備に貢献し

資源循環型社会を目指した廃棄物の

リサイクルを行う

砕石砕砂事業

埼玉県皆野町に100万㎡、神川町に30万㎡の砵区を保有し、ここで採掘される原石を原料に、ビル、橋、道路などの建設に使用される砕石砕砂を生産販売しています。新砵区の原石運搬道路が2017年上期に完成。生産性ならびに品質の向上も図れ、幅広いニーズに対応することで埼玉県シェアNo.1を堅持し、更なる販路拡大にも取り組んでいます。

埼玉県
シェア No.1

次世代に繋がる
新たな事業用地の
確保



主要製品

- コンクリート用砕石
 - ・生コンクリート用原料
 - ・コンクリート二次製品用原料
- 砕砂
 - ・生コンクリート用原料
 - ・コンクリート二次製品用原料
 - ・アスファルト合材用原料
- 道路用砕石
 - ・アスファルト合材用原料
 - ・ガーデニング材



マテリアルリサイクル事業

建物の解体から発生するコンクリートくずを再生路盤材に、家屋の解体や樹木の伐採などから出る木くずを木くずチップにし、資源循環型社会の構築に貢献しています。

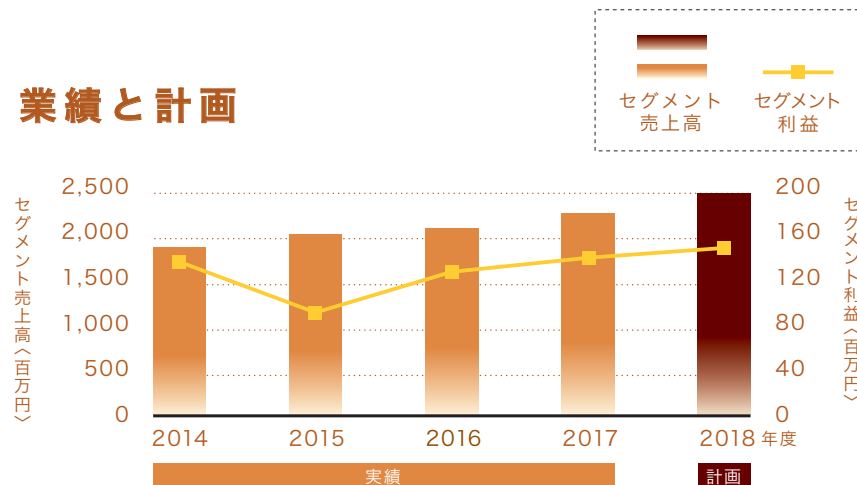
- 再生路盤材
 - ・土木建築材料



- 木くずチップ
 - ・パルプ用原料
 - ・燃料



業績と計画





種子と乾牧草を扱うユニークな肥料メーカーとしての存在感

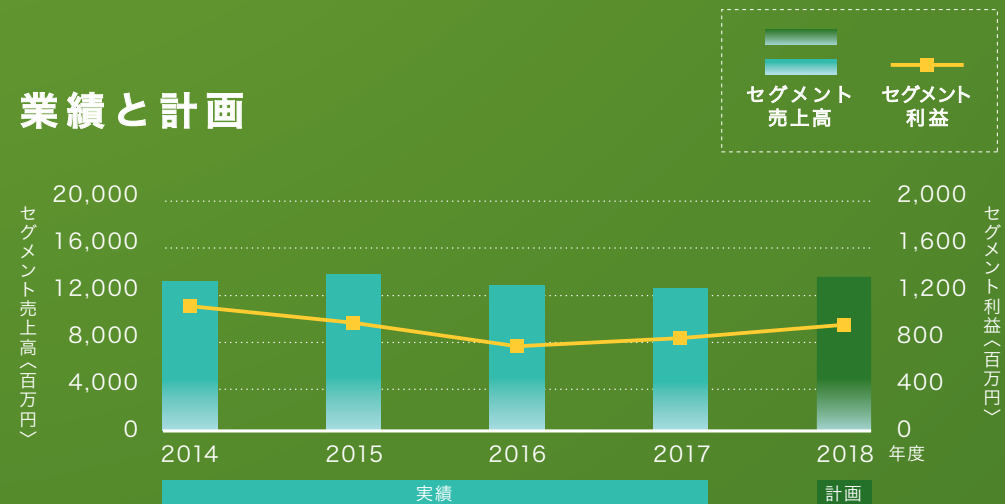
持続可能な農業をつくる、強い農業をつくるという使命感

農業資材事業

農業分野の構造変化が進む中、ビジネスモデルの変革が求められています。私たちは肥料事業、種苗事業、乾牧草事業それぞれの強みを活かすと同時にシナジー効果を最大限に発揮し、改革と創造を重ねながら農業の新たな可能性にチャレンジします。



業績と計画



肥料事業

加速する農業改革を背景に、さらなる銘柄集約、価格引き下げ拡大などにより、肥料を取り巻く環境はますます厳しくなっています。朝日工業は今後本格化するメーカー集約・淘汰に勝ち残るために、強みである有機原料開発力と粒状化技術を武器に、スペシャリティ分野を極めていきます。また、変化をチャンスと捉え、新たな課題や提案にも果敢に挑み、どんな変化にも柔軟に対応できる企業を目指します。

有機原料開発力と
粒状化技術で
高品質な肥料を提供

種苗・乾牧草の
販売ルート活用による
販売エリアの拡大

未利用資源を活用した
資源循環型農業を推進

萊陽龍大朝日農業科技有限公司

- ・2011年、豊田通商および龍大食品集団と合併で設立
- ・中国最大の農業生産地である山東省で、排ガス洗浄や工業排水のリサイクルなど環境に配慮した設備で、朝日工業の技術指導のもと良質な粒状有機質肥料を製造
- ・2018年1月、環境規制強化への対応完了（ガス炉、バグフィルターなど設置）



環境に配慮した製造

朝日工業は近隣住民、社員、地球環境への影響に配慮した方法、設備で、粒状有機質肥料を中心にさまざまな肥料を製造しています。

臭気

- ・電気集塵設備、排ガス洗浄設備、土壌脱臭設備、蓄熱脱臭設備
- ・工場建屋の密閉化

排水

- ・クローズドシステムにより、工場排水は工場内で循環
(千葉工場・関西工場)

排ガス

- ・排ガス洗浄設備、電気集塵設備



土壌脱臭設備



蓄熱脱臭設備



排ガス洗浄設備

微生物資材の共同研究開発

生産者ニーズに対応し、消費者の安全志向に応える肥料やその原料の研究開発を強化するため、国や民間の研究機関、大学、都道府県と共同で、微生物資材の開発を中心にさまざまな研究を推進しています。2018年中に、いくつかの新商品が誕生する予定です。



東京農工大学他との共同研究



タイ国立遺伝子生命研究所との共同研究

有機肥料原料開発と製造技術

朝日工業の粒状有機質肥料は、自社開発した有機資材などを原料に製造されています。独自の造粒技術により硬度・円球性に優れた粒状で、機械施肥に最適です。また、こうした有機資材の使用割合を高めることによって、コスト削減にも寄与します。



豚ふん



菌体*

*食品工場などの排水処理過程で発生する汚泥（有機物）

生産者とともに

常に生産者の立場に立ち、製品開発やマーケティングを推進しています。顧客サービスの一環として、最も力を入れている活動の一つが土壤診断・施肥相談です。土壤の性質に応じて適切な施肥をアドバイスすることで、収量増加や省力化、コスト削減につながります。年々件数は増えており、2017年度は約3,000件となりました。

これからも土壤診断を通じて生産者の声に直接耳を傾け、高品質な肥料をお届けします。

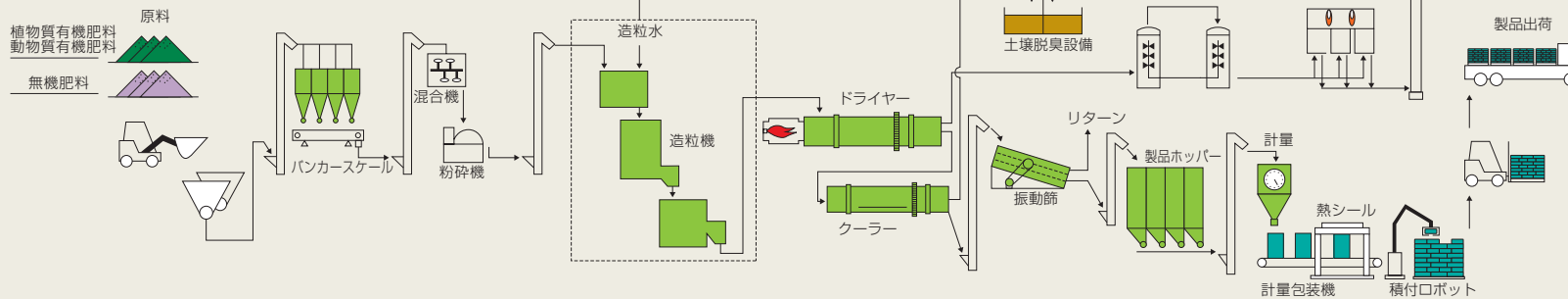


土壤サンプル採取



施肥相談

粒状有機質肥料製造工程



有機アグレット

生産者向け肥料



家庭園芸用肥料



Vege*Garden
ベジガーデン

当社WEBサイト
ベジガーデンでも購入できます。
<http://www.vege-garden.com/>

種苗事業

朝日工業は生産者と消費者のどちらのニーズにも応えるため、美味しさはもちろんのこと、耐病性、高収量、栽培のしやすさに焦点を当てて野菜品種の研究開発に取り組んでいます。年2回の春と秋のフィールドディでは、こうして開発した品種に加え、国内外から導入した品種を生産者や市場関係者、マスコミなどに紹介し、販売につなげています。

今後は、自社開発品種の拡充、パートナーとの取り組み強化による商品の充実、農業法人など新規販売ルートの構築を進め、収益拡大を目指します。

自社・共同研究開発品種の
販売拡大

生産者への安定供給

販路拡大
肥料事業の販路活用
海外パートナーとの連携

種子の生産と品質管理

種苗事業にとって、自社開発品種の種子生産とその管理は大変重要なプロセスです。

大規模な種子生産は、殆ど海外(アジアなど)で行われるため、信頼できる種子生産者と良好な関係を築くことにより、良質な種子が安定的に生産されます。

生産された種子は、純度検定(DNAマーカー)、発芽試験(選別)、病理検定(DNAマーカー、クロマト試験紙)などにより、生物学的にも確かな品質のものだけが生産者に供給されます。



種子生産(中国)



DNAマーカーによる純度検定

主力商品



神川農場

野菜品種の研究開発、栽培試験、品種選抜などを行う研究農場であると同時に、関係者に品種紹介を行う展示圃としての役割を担っています。



ブロッコリー種子の販売開始

2017年10月、ブロッコリーの品種開発とその種子の安定供給に強みを持つ(株)ナコスと、独占販売パートナー契約を締結しました。

ブロッコリーの大産地であり、朝日工業肥料事業の拠点である埼玉県を皮切りに、農業事業の全国販売ネットワークを活用し、販売活動を展開していきます。



乾牧草事業

良質な乾牧草を日本市場に安定的に供給することを基本に、オーストラリアからイネ科のオーツヘイ(えん麦)などの乾牧草を輸入しています。

当社乾牧草事業の重要な拠点となっているのがオーストラリアのジョンソン朝日です。2017年は中国の乾牧草需要の拡大を背景に販売数量を着実に伸ばし、設立当初から目標としてきた10万トン(年間販売数量)を達成しました。

国内有力パートナーとの
共同マーケティング

ジョンソン朝日による
アジア需要への対応

製品

オーツヘイ(オーストラリア)

当社主力製品で、糖度が高いため、嗜好性が高いことが特徴



ジョンソン朝日

- ・1995年、オーストラリアの乾牧草加工・輸出大手J.T.Johnson&Sons Pty.Ltd.と合弁で設立
- ・ビクトリア州ホーシャムで、徹底した品質管理により高品質な乾牧草を生産
- ・日本、中国、韓国、台湾などに輸出



乾牧草加工設備

飛躍

世界的な増加が見込まれている乾牧草需要を視野に、生産能力強化および出荷の利便性向上を図るため、ホーシャムから10km北のドゥーンに30haの用地を取得しました。2018年3月に3棟の倉庫が完成し、将来的には生産の移転も計画しています。

今後、販売数量拡大を目指すとともにマーケットニーズに合致した製品の開発、さらなる品質管理向上に努め、アジア地域の需要に応えていきます。



新倉庫(ドゥーン)

ENVIRONMENT SOCIAL GOVERNANCE

環境・ガバナンス・社会貢献活動

環境マネジメント

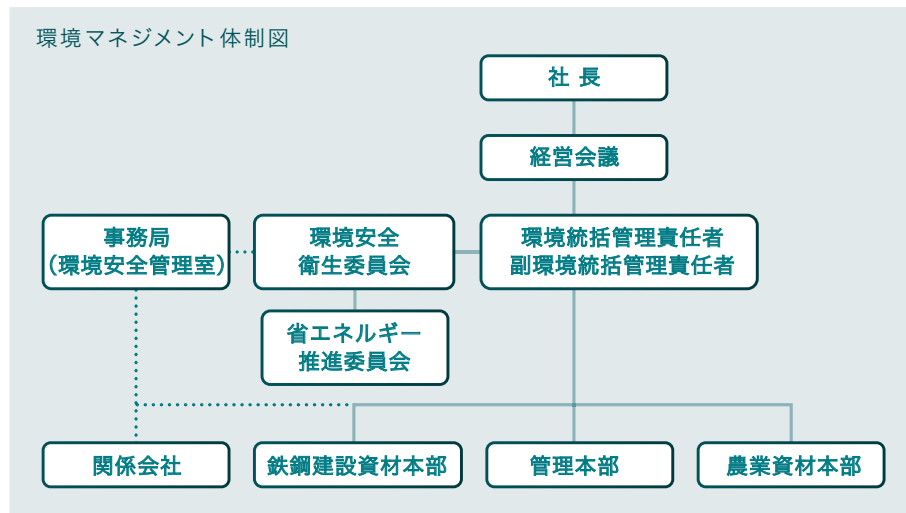
朝日工業グループは、「地球環境や地域社会への貢献」を何より大切に、「みなさまから愛され続ける企業」でありたいという思いのもと、活動しています。

朝日工業グループ環境指針

環境負荷低減、地球温暖化防止、ゼロエミッションを通じて、環境へ貢献します。

環境マネジメント体制

朝日工業グループ一体となった環境マネジメント体制を構築し、継続的な環境活動を強力に推進します。



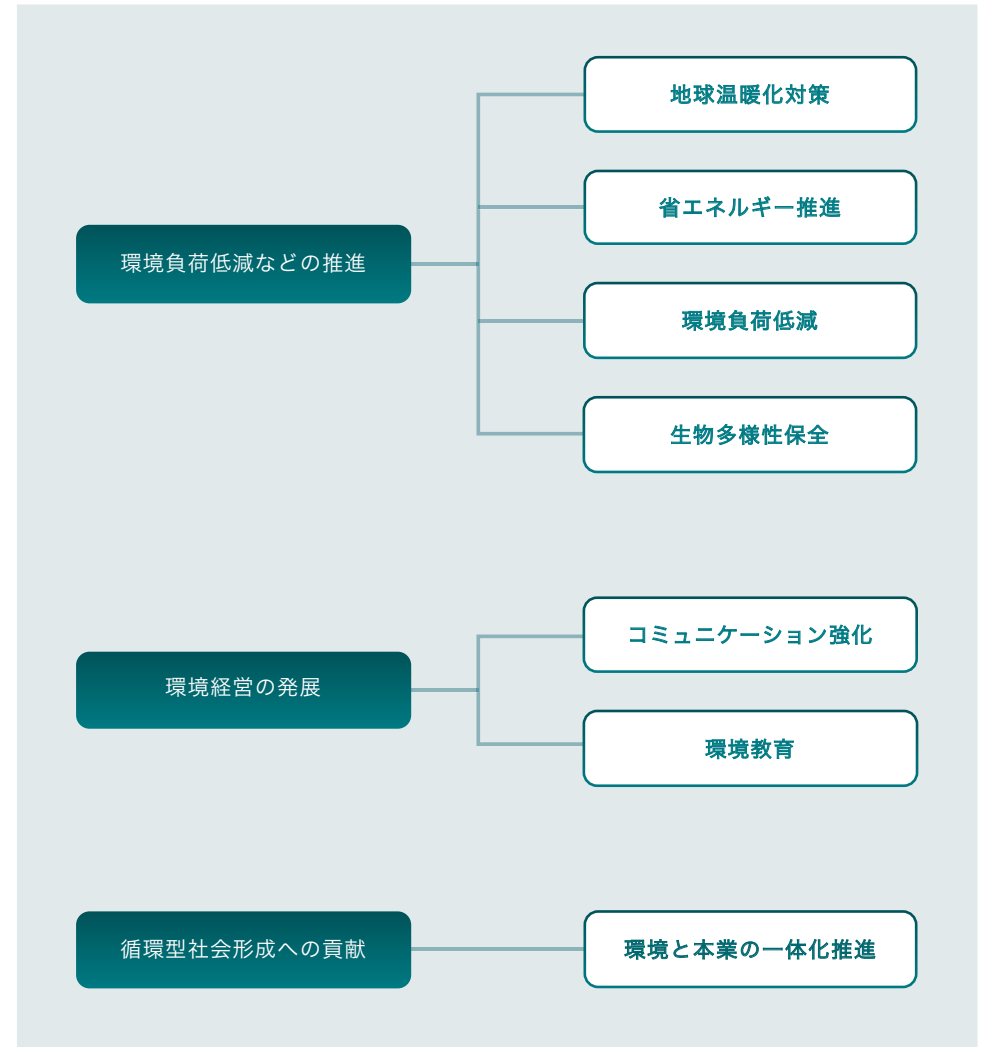
環境マネジメントシステム

朝日工業の鉄鋼工場(埼玉工場)および肥料工場(関東工場、千葉工場、関西工場)、(株)上武は、環境マネジメントシステムISO14001(環境ISO)の認証を取得しています。

環境ISOの活動は、各工場の環境管理委員会が中心となり、毎年目標を設定し、その達成に向けて各職場で取り組んでいます。

第4期中期環境行動計画

朝日工業グループでは「第4期中期環境行動計画」(2015~2018年度)を策定し、この計画に基づき活動を行っています。



環境負荷低減などの推進

地球温暖化対策

地球温暖化対策としてCO₂排出量の削減に積極的に取り組んでいます。2009年度から2012年度にかけて実施した主要設備の燃料転換(天然ガス化)が、以降のCO₂排出量の大幅な削減に寄与しています。

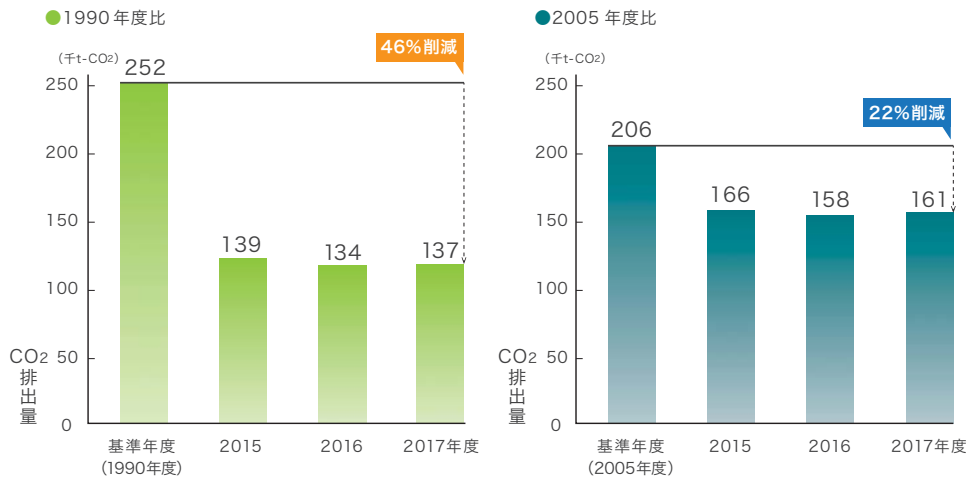
ー 2017年度の主な活動 ー

- ・設備メンテナンスおよび運用改善による電力・燃料の削減
- ・工場・事務所のこまめな節電
- ・営業車両のハイブリッド化、電気自動車の導入
- ・埼玉県の排出量取引制度を活用し、当社の県内事業所で超過削減したCO₂の販売実施

目標	実績	評価
● CO ₂ 排出量 1990年度比 25% 削減 2005年度比 5% 削減	・ 1990年度比 46% 削減 ・ 2005年度比 22% 削減	◎

評価 ◎: 100%達成 ○: 70%達成 △: 70%未満の達成、改善が必要

■ CO₂ 排出量の推移



※ 1990年度電力係数を用いて各年度実績を算出

※ 各年度電力係数を用いて実績を算出

省エネルギー推進

朝日工業グループでは、エネルギー使用量の削減を重要課題として取り組んでいます。特に鉄鋼部門で多量のエネルギーを消費しており、エネルギー管理を徹底しています。

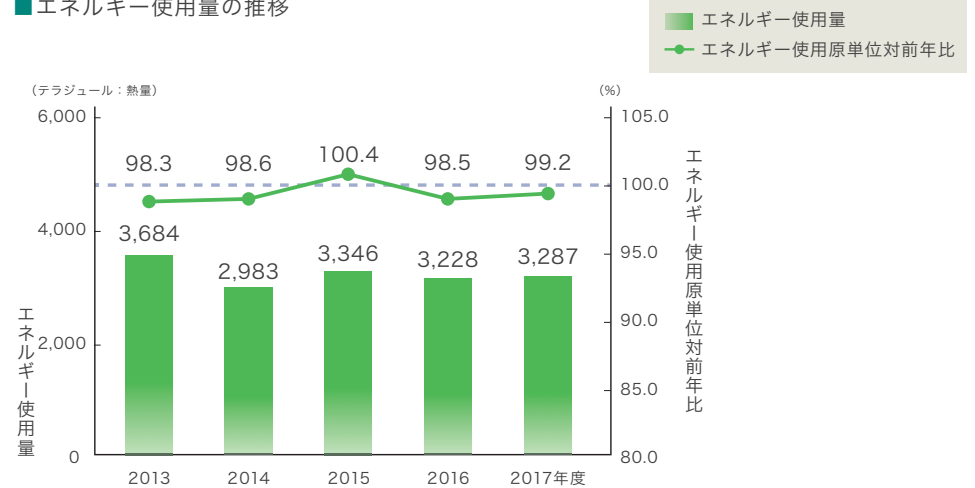
各工場のエネルギー責任者で構成される省エネルギー推進委員会で全社の省エネルギー進捗管理を行い、省エネルギー活動を展開しています。

ー 2017年度の主な活動 ー

- ・鉄鋼部門の電気炉の適正な操業管理および肥料部門の生産性向上によるエネルギー使用量削減、原単位良化
- ・省エネルギー重点活動として、エアコンや照明、パソコンなどについて毎月重点テーマを決め実施

目標	実績	評価
● エネルギー原単位の5カ年度平均1%削減	・ 2013～2017年度平均0.8%削減	○

■ エネルギー使用量の推移



エネルギー使用原単位対前年比が100%を下回る場合は、前年度より原単位良化

環境負荷低減

環境保全・生物多様性保全を目的に、工場から排出される排ガス・排水については、法令で定められている基準値より厳しい自主管理目標を設定し管理しています。

廃棄物については、排出削減に加え、社内の再資源化や有価物として有効利用を推進しています。

ー 2017年度の主な活動(排ガス・排水管理) ー

- ・排ガス、排水処理設備の適正な運転管理、保守点検の徹底
- ・夏季の水質モニタリングを強化(異常気象などへ対応)
- ・油膜検知器およびモニターによる常時監視(河川流出の未然防止)

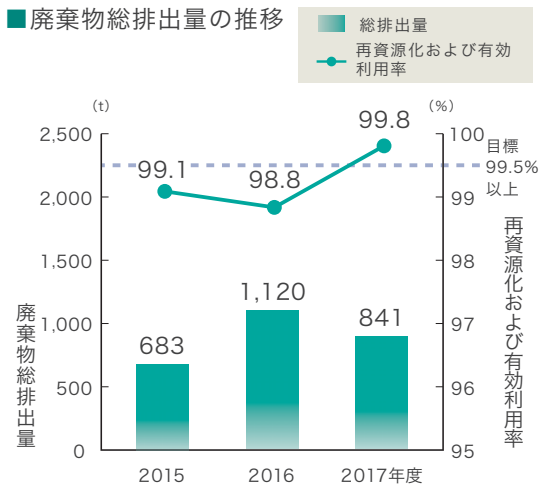
目標	実績	評価
● 排ガス 規制基準値の1/2以下	・全設備で達成	◎
● 排水 規制基準値の1/10以下	・全項目達成	◎

ー 2017年度の主な活動(廃棄物) ー

- ・製鋼工程で発生するばいじんを社内のリサイクル設備で全量再資源化処理
- ・木製廃パレットの有価販売を開始

※再資源化および有効利用率：基準排出量(2003年度7,223t)に対する最終処分量の比率から算出

■ 廃棄物総排出量の推移



目標	実績	評価
● 廃棄物ゼロエミッション 再資源化および有効利用率 99.5%以上	・再資源化および有効利用率 99.8% ・ばいじんの全量再資源化処理により排出量削減	◎

生物多様性保全

朝日工業グループの各工場は、豊かな自然に囲まれています。地域のボランティア活動の参加や、工場周辺の清掃活動を積極的に行い、環境保全に取り組んでいます。また、種苗事業においては減農薬栽培が可能な耐病性種子を開発しており、お客様にお使いいただく製品が生物多様性保全に貢献するものとなっています。

目標	実績	評価
● 耐病性種子の開発導入促進	・耐病性種子(大玉トマト、キュウリ、ホウレンソウ、台木)を開発	◎
● 事業所、工場の保全活動	・5S活動、従業員の周辺巡視実施 ・敷地境界地点の環境監視を実施	◎
● 水源、緑化保全等を目的とする諸活動参加	・ボランティア活動の継続実施 ・朝日フラワーガーデンの整備 ・社有林の森林保全	◎



湖畔の清掃ボランティア

当社は群馬県に約40ヘクタールの社有林を保有しています。この社有林にはヒノキヤスギが生息しており、定期的に間伐や植林などの整備を行っています。

森林の保全は、生息する生物の種、生態系の保護につながります。すなわち生物多様性保全となり、私たちの暮らしにさまざまな恩恵をもたらしています。この他に整備された森林はCO₂を吸収するため地球温暖化防止に貢献します。

当社の社有林で試算したCO₂吸収量2007～2017年度で約200t-CO₂®でした。

今後も森林整備を行い、自然豊かな森林を守っていきます。

※群馬県の森林のCO₂吸収量認証制度算定方法を参考に算出



社有林の森林保全(間伐作業)

環境経営の発展

環境コミュニケーション強化

朝日工業グループの環境活動を知っていただくため、地域の方を対象に毎年「環境コミュニケーション」を開催しています。工場見学や意見交換を行い、当社の理解を深めていただくとともに交流の場となっています。

目標	実績	評価
●環境情報発信、地域交流参加	・地域の方に対し、事業内容や環境活動の取組状況を説明、鉄鋼工場をメインに工場見学を実施。	◎

環境教育

朝日工業グループでは、従業員の環境意識向上を目的としたさまざまな教育や取組を展開しています。一人ひとりが環境を意識することで循環型社会へ資する当社事業の発展を目指します。

目標	実績	評価
●社内環境セミナー開催	・業務内容に合わせた環境セミナー開催	◎
●各種検定取得の促進	・eco検定、社内エコ検定 14名受験 (累計約330名)	◎

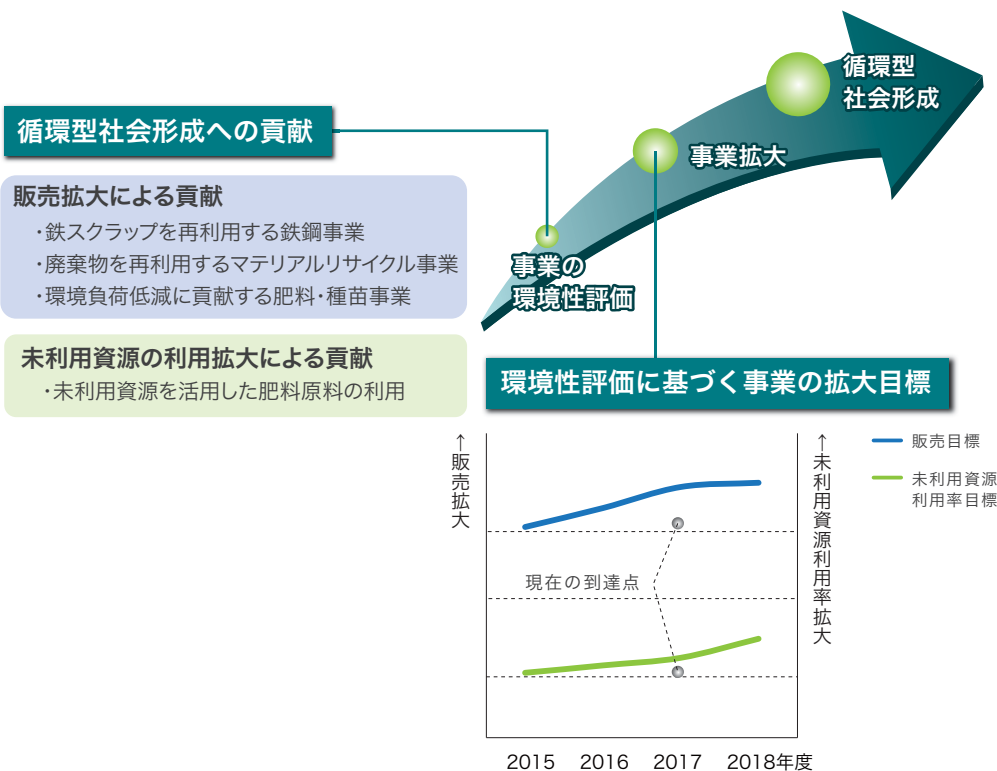


社内環境セミナー



循環型社会形成への貢献

朝日工業グループの主要事業は循環型社会形成に貢献しています。事業の拡大により環境への貢献につながることから、全社一丸となって取り組んでいます。



トピックス

環境経営度調査 鉄鋼業2年連続1位獲得

日本経済新聞社が主催する企業の環境経営度調査において、2年連続で鉄鋼業1位となりました。この調査は、環境対策と経営を両立する企業が評価される仕組みとなっています。特に、環境へ配慮した製品であることや生物多様性への取組について高い評価をいただきました。

マテリアルバランス

INPUT

原材料	鉄鋼……………	382千t	エネルギー	電力……………	224MkWh
	肥料……………	157千t		天然ガス ……	17Mm ³ N
	砕石砕砂 ……	1,856千t		重油……………	3千kl
	マテリアルリサイクル ……	47千t		その他燃料 ……	4千kl
用水	水……………	1,624千m ³			

※原材料の砕石砕砂は原石投入量、マテリアルリサイクルは産廃受入量



生産

生産量	鉄鋼……………	340千t	砕石砕砂 ……	1,597千t
	肥料……………	137千t	マテリアルリサイクル ……	58千t



OUTPUT

大気排出	CO ₂ ……………	161千t	廃棄物・副産物	総発生量……………	58千t
	NO _x ……………	40千t		再資源化量……………	58千t
	SO _x ……………	12千t		グループ内……………	8千t
				外部委託……………	50千t
排水	水……………	1,469千m ³		処分委託量……………	0.8千t
				最終処分量……………	0.01千t

環境会計

環境会計とは、持続可能な発展を目指して、環境保全活動を効果的・効率的に推進することを目的に、環境負荷や環境保全の費用（環境保全コスト）と効果（経済効果）を可能な限り定量的に把握する仕組みです。

環境保全コスト：環境保全目的の設備、環境負荷を低減する取り組みのための投資額及びコスト

経済効果：環境保全対策を進めた結果、利益に貢献した効果額

環境保全コスト

(百万円)

区分	2015年度	2016年度	2017年度	構成率 (%)
公害防止コスト	560	458	502	47.2
地球環境保全コスト	87	77	72	6.7
資源循環コスト	318	302	352	33.1
管理活動コスト	30	29	30	2.8
研究開発コスト	50	54	71	6.7
社会活動コスト	24	31	32	3.0
環境損傷対応コスト 他	5	5	5	0.5
環境保全コスト(計)	1,074	956	1,064	100.0

経済効果

(百万円)

区分	2015年度	2016年度	2017年度	構成率 (%)
社内リサイクル効果※	540	389	489	73.7
廃棄物処理効果	63	49	59	8.9
製品コスト低減効果	51	41	29	4.4
産廃受託処理効果	96	95	86	13.0
経済効果(計)	750	574	663	100.0

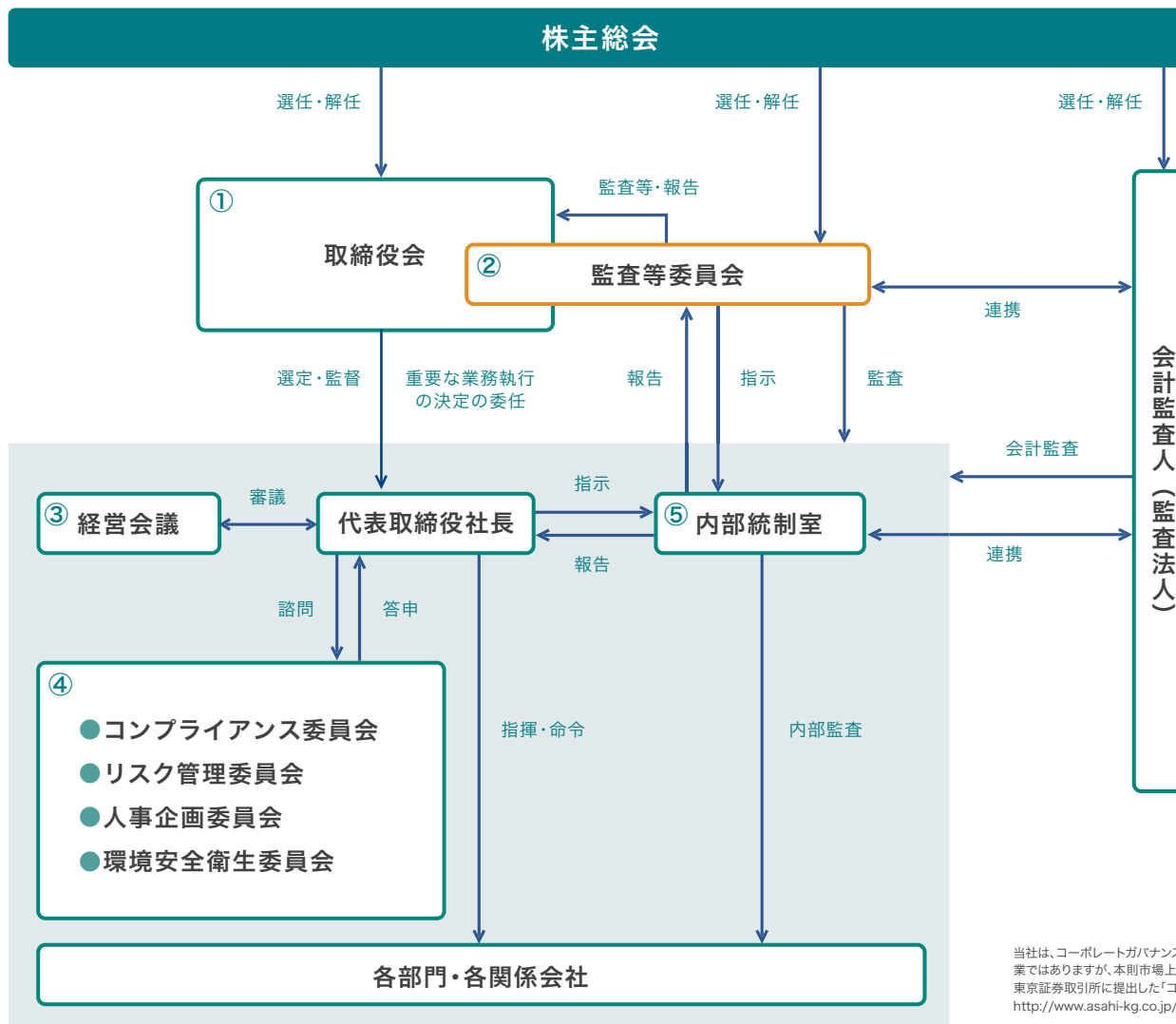
※社内リサイクル効果の増加は、主に製鋼のダスト処理リサイクル量の増加によるものです。

○環境活動の報告内容について
朝日工業のホームページの「環境活動」のページにも掲載しています。
<http://www.asahi-kg.co.jp/csr/environment/>

コーポレート・ガバナンス

当社は、経営環境の変化に迅速に対応できる体制の整備、公平で迅速・適正な情報発信による経営の透明性の確保、合理的な判断に基づく経営の効率性の追求、およびコンプライアンスの徹底などコーポレートガバナンスの強化・充実を図ることを経営の重要課題としています。

コーポレート・ガバナンス体制図



① 取締役会

取締役(監査等委員である取締役を除く。)6名と監査等委員である取締役5名(うち社外取締役3名)の11名で構成されています。毎月開催の定例取締役会と必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項の決定および各取締役の業務執行状況の監督ができる体制をとっています。

③ 経営会議

取締役会への付議事項および取締役会から権限の委譲を受けた経営執行に関する重要事項を審議・調整・決定する機関として、常勤取締役、事業本部長、執行役員、統括部長、管理部門の部長等で構成され、中・長期的な観点から利益計画、製造・販売計画、製品計画、人材計画、開発計画などを検討審議できる体制をとっています。

④ 各委員会

代表取締役社長の諮問機関として設置し、それぞれ個別分野での案件について企画・立案・審議し、重要事項について経営会議または取締役会に上程することとしています。

② 監査等委員会

社外取締役3名を含む5名の取締役で構成されており、月1回および必要に際し開催できる体制をとっています。また、内部統制室および会計監査人と連携のうえ、取締役の職務執行の監査を実施しています。さらに、各監査等委員は取締役会に出席し議案の決議等を行うほか、代表取締役と四半期毎に会合を持ち率直な意見交換を行っています。

⑤ 内部統制室

(内部監査課・内部統制課)

内部監査課は年間計画に基づき社内各部署および国内子会社の業務について、法令や社内規程等に照らした適正性やリスク管理の状況などの監査をしています。また、内部統制課は財務報告に係る内部統制の整備、運用状況の検討、評価などを行っています。内部統制室は、監査等を効果的に行うよう監査等委員会や外部監査人(監査法人)と連携を図っています。

当社は、コーポレートガバナンス・コードの基本5原則を順守しています。また、当社は、JASDAQ上場企業ではありますが、本則市場上場企業に求められる原則についても対応しています。東京証券取引所に提出した「コーポレート・ガバナンス報告書」を当社ウェブサイトに掲載しております。
<http://www.asahi-kg.co.jp/corporate/governance>

コンプライアンス

コンプライアンス委員会体制図

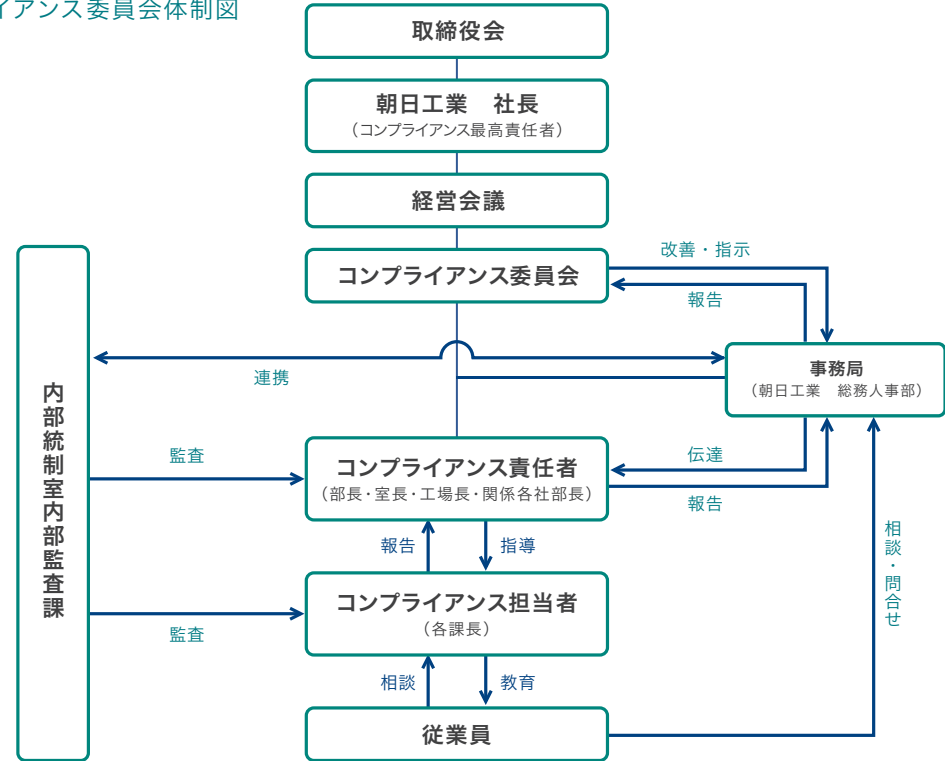
朝日工業グループでは、グループ全体でコンプライアンス活動を実施しています。倫理憲章・行動規範を定め、法令遵守はもとより、企業倫理・社会倫理も守ることを、徹底するようにしています。

当社グループのコンプライアンスに関する重要方針や推進計画などは、各職場や労働組合の代表がメンバーとなり、朝日工業社長の諮問機関であるコンプライアンス委員会で審議・立案し、経営会議または取締役会へ上程し、決定しています。

2017年度の主な活動

■啓蒙・教育活動

- ・グループ役員・幹部社員：ハラスメント研修(2回)
- ・営業部署・インターネット販売部署：商品や宣伝などの表示に関する研修



リスクマネジメント

朝日工業グループでは、「組織に不利な影響を与え得る不確実な事象」をリスクとして定義し、当社グループで想定されるさまざまなリスクに対し、当社グループのリスクを適切に管理し、リスク対応能力の継続的向上を図るため、グループ全体でリスク管理を推進しています。

リスク管理の基本施策と体制整備を推進するため、リスク管理項目、重要方針、推進計画、重要事項などは、各職場の代表がメンバーとなり、朝日工業社長の諮問機関であるリスク管理委員会で審議・立案し、経営会議または取締役会へ上程し、決定しています。

2017年度の主な活動

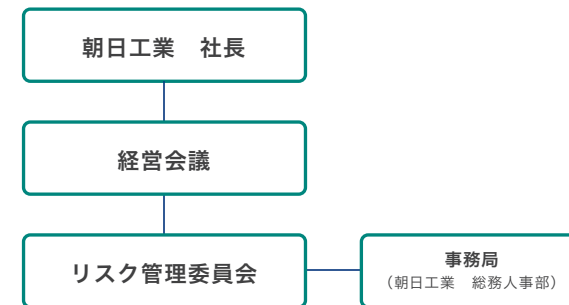
■事業継続計画(BCP)

- ・毎年大規模地震を想定したBCP訓練を実施

■危機管理規程の改定

- ・大規模な災害・事故、クレームや事件に加え、Jアラートにも適正に対応

リスク管理委員会体制図



人財マネジメント

朝日工業グループにとって、人材は最も重要な経営リソースです。人手不足、高齢化などの課題と向き合い、多様なバックグラウンドをもつ人々が長期にわたり当社グループで活躍し、社会に貢献できるよう、魅力ある会社づくりおよび人材育成に計画的に取り組んでいます。

人材育成

多様な人々の個性や価値観の違いを乗り越え、尊重し合いながら働く喜びを共有できる職場環境づくりを目指しています。また、社員一人一人がやりがいをもって活動し、目標に向かってチャレンジできる体制を整え、頑張る成果を上げた社員の処遇の充実、女性活躍の機会拡大を図っています。

●障がい者雇用等

障がい者の方が誇りを持って自立した生活を送れるよう、障がい者の雇用に前向きに取り組んでいます。また、埼玉県本庄市の「就労準備支援事業」にも参画しています。

●外国人スタッフ受入

意欲のある外国人を積極的に受け入れています。文化の違いを乗り越え、製造や技術の分野で活躍しています。

研修制度の充実

現在、当社が実施する研修には、一般の社員研修に加え、専門職研修があります。

●一般研修

新入社員研修、フォローアップ研修(5年目)、中堅社員研修、課長職昇格前・後研修、部長職昇格前・後研修、幹部社員研修

●専門職研修

DNAマーカーや病害検定など研究機関が実施する研修に参加
製造職社内技能検定や生産マイスター研修など実施



幹部社員研修



社内英語講座



新入社員研修

自己啓発

自らの意思で学び、自分自身を変革し、進歩して行こうとする社員をサポートしています。

●通信教育

若手社員から管理職まで幅広い社員に対応できるよう、通信教育コースは営業、技術、財務・会計、文章力強化、PC、ストレス管理、健康管理、資格取得など多岐に及んでいます。

●語学の習得

合併会社を含めた海外企業とのコミュニケーション向上などを目的に、英語と中国語の語学講座を設けています。

健康経営への取組(社員へのケア)

健康的な体づくりは基より、「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づく、心の健康、活気ある職場づくりに取り組んでいます。ストレスチェック制度を活用し、社員のストレス度を把握し、社員自身の気づきを促すとともに、必要に応じて、産業医または産業カウンセラーとの面談ができるなど、サポート体制を充実させ、健康で働きやすい職場づくりを進めています。

社員家族とのコミュニケーション

「次世代育成支援対策推進法」に基づき、社員の家族に朝日工業グループをより理解していただくことを目的に、2017年度から家族見学会(子ども参観日)を開始しました。鉄鋼工場や肥料工場のダイナミックな製造工程と環境に配慮した製品づくりなどを見ていただくとともに、家族の絆を感じていただくイベントとして、今後も継続していきます。



家族見学会

社会貢献活動

朝日工業グループは、地域貢献と子供たちを応援する活動を行っています。

水辺や公園、道路の定期清掃ボランティア、公園の整備、納涼祭開催、スポーツイベントへの支援などの活動を通じ、地域のみなさまの自然環境の改善や生活環境の向上に積極的に取り組んでいます。また、子供たちが豊かに育まれることを願い、野菜の栽培教室、工場見学・農場見学、絵画制作(朝日神川ギャラリー)などさまざまな地域の教育支援を推進しています。

地域社会への取り組み



清掃ボランティア



地域住民のための納涼祭を開催



朝日フラワーガーデン

地域教育支援



工場見学



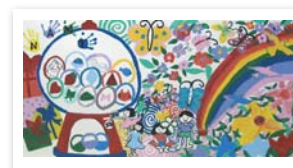
地元小学校での種まき教室



朝日写真ニュース



朝日神川ギャラリー



2008年3月より毎年、埼玉事業所の外壁に地元の小中学生の絵を展示しています。2018年3月には、新たに69点の作品が加わり、これまで合計で515点が展示されました。元気をもらえると、地域のみなさまにも好評です。



小学生柔道大会

COMPANY INFORMATION

財務データ・会社情報・投資家情報

連結貸借対照表

(百万円)

	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末	2017年度末
資産の部					
流動資産					
現金及び預金	2,640	1,501	2,640	3,336	4,238
受取手形及び売掛金	5,952	5,671	4,727	4,734	6,401
商品及び製品	3,221	5,830	4,754	4,762	4,806
原材料及び貯蔵品	2,060	1,527	1,397	1,510	2,080
その他	293	321	328	514	431
貸倒引当金	△5	△3	△1	△1	△1
流動資産合計	14,162	14,849	13,845	14,856	17,956
固定資産					
有形固定資産	10,652	10,620	10,116	10,611	10,935
建物及び構築物	3,139	3,344	3,134	3,046	3,070
機械装置及び運搬具	4,053	3,817	3,509	3,745	3,963
土地	2,678	2,678	2,678	2,721	2,656
その他	780	779	792	1,098	1,245
無形固定資産	196	193	182	234	216
投資その他の資産	2,280	2,274	1,683	1,804	1,406
固定資産合計	13,129	13,088	11,982	12,650	12,558
資産合計	27,292	27,938	25,828	27,507	30,514

(百万円)

	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末	2017年度末
負債の部					
流動負債					
支払手形及び買掛金	5,947	5,626	3,831	4,268	6,441
電子記録債務					885
短期借入金	5,915	7,245	4,950	4,700	4,000
1年以内返済予定の長期借入金/社債	1,910	1,554	1,709	2,007	2,487
その他	3,076	2,213	2,858	2,616	2,429
流動負債合計	16,848	16,638	13,348	13,592	16,242
固定負債					
長期借入金及び社債	3,315	3,713	3,264	3,990	4,947
退職給付に係る負債	1,050	722	1,097	964	857
その他	918	835	400	555	594
固定負債合計	5,284	5,271	4,762	5,510	6,399
負債合計	22,132	21,909	18,111	19,102	22,642
純資産の部					
株主資本	4,729	5,361	7,864	8,334	7,762
その他の包括利益累計額	430	667	△148	69	110
純資産合計	5,160	6,028	7,716	8,404	7,872
負債純資産合計	27,292	27,938	25,828	27,507	30,514

連結損益計算書

(百万円)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
売上高	43,591	35,494	36,348	32,354	35,878
売上原価	37,317	29,174	28,064	24,835	29,446
売上総利益	6,274	6,320	8,284	7,519	6,431
販売費及び一般管理費	6,836	5,911	6,369	6,318	6,496
営業利益	△562	409	1,915	1,200	△64
営業外収益	174	197	280	149	246
営業外費用	253	258	264	235	256
経常利益	△641	348	1,931	1,115	△74
特別利益	3	545	410	25	151
特別損失	9,337	263	118	177	124
税金等調整前当期純利益	△9,975	630	2,223	963	△47
法人税、住民税及び事業税	104	114	246	73	108
法人税等調整額	1,013	△33	△527	69	206
当期純利益	△11,093	549	2,503	820	△362
親会社株主に帰属する当期純利益	△11,093	549	2,503	820	△362

連結包括利益計算書

(百万円)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
当期純利益	△11,093	549	2,503	820	△362
その他の包括利益					
その他有価証券評価差額金	56	3	△327	133	△85
為替換算調整勘定	18	28	△67	△28	25
退職給付に係る調整額	-	204	△420	113	99
その他の包括利益合計	74	236	△815	218	40
包括利益	△11,018	785	1,688	1,038	△322
親会社株主に係る包括利益	△11,018	785	1,688	1,038	△322
非支配株主に係る包括利益	-	-	-	-	-

連結キャッシュフロー

(百万円)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
営業活動によるキャッシュフロー	2,116	△1,164	3,852	1,410	1,037
投資活動によるキャッシュフロー	△2,115	△1,044	△61	△1,095	△615
財務活動によるキャッシュフロー	73	1,065	△2,639	388	476
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	4	△12	△7	4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	78	△1,139	1,139	695	902
現金及び現金同等物の期首残高	2,561	2,640	1,501	2,640	3,336
現金及び現金同等物の期末残高	2,640	1,501	2,640	3,336	4,238

連結株主資本等変動計算書

2017年4月1日～2018年3月31日

(百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	2,190	1,802	4,636	△293	8,334	160	35	△125	69	8,404
当期変動額										
剰余金の配当			△210		△210					△210
親会社株主に帰属する当期純利益			△362		△362					△362
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△85	25	99	40	40
当期変動額合計	-	-	△572	-	△572	△85	25	99	40	△532
当期末残高	2,190	1,802	4,063	△293	7,762	75	60	△25	110	7,872

セグメント^{※1}別業績

(百万円)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
セグメント売上高					
鉄鋼建設資材事業	26,242	19,860	19,853	17,452	20,995
砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業	1,994	1,938	2,010	2,095	2,364
農業資材事業	14,628	13,018	13,821	12,723	12,464
その他 ^{※2}	223	151	150	338	464
調整額 ^{※3}	△221	△116	△108	△255	△410
計	43,591	35,494	36,348	32,354	35,878

※1：2016年度に事業売却した環境ソリューション事業は表示していません。

※2：「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントの業務請負事業です。

※3：「調整額」は、セグメント間の売上高です。

(百万円)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
セグメント利益^{※4}					
鉄鋼建設資材事業	△1,210	65	1,942	1,318	85
砕石砕砂・マテリアルリサイクル事業	146	151	89	127	139
農業資材事業	1,628	1,100	924	740	808
その他 ^{※2}	△30	△20	△6	17	15
調整額 ^{※5}	△1,114	△924	△1,071	△1,002	△1,114
計	△562	409	1,915	1,200	△64

※4：「セグメント利益」には、持分法による投資損益が含まれていますが、調整額にて持分法による投資損益を控除し、営業損益と調整しています。

※5：「調整額」は、主に報告セグメント以外の部門で発生する一般管理費です。

会社情報

2018年6月末現在

会社情報

商号 朝日工業株式会社
本社 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-5 Daiwa東池袋ビル
TEL 03-3987-2161
URL <http://www.asahi-kg.co.jp/>
創立 1935年8月16日
設立 1991年10月29日
資本金 2,190百万円
従業員数 428名(グループ489名) 2018年3月末現在

役員紹介

代表取締役社長	村上 政徳	
専務取締役	中村 紀之	
常務取締役	広瀬 清	稲場 進
取締役	草間 勝	関根 傑
取締役監査等委員	高橋 明宏	原田 浩行
取締役監査等委員(社外)	田島 伸一	花枝 英樹
	土屋 光章	
執行役員	坂本 利雄	田中 悟
	山田 吉朗	

事業所

埼玉事業所(鉄鋼建設資材事業、農業資材事業)

〒367-0394 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
TEL(0274)52-2711

大阪事業所(農業資材事業)

〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満1-2-5 大阪JAビル
TEL(06)6311-6215

【鉄鋼工場】 埼玉工場 〒367-0394 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
TEL(0274)52-2713

【肥料工場】 関東工場 〒367-0394 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
TEL(0274)52-2712

千葉工場 〒289-0506 千葉県旭市さくら台1-13
TEL(0479)68-1600

関西工場 〒528-0005 滋賀県甲賀市水口町水口6776
TEL(0748)62-8171

【農場】 神川農場 埼玉県児玉郡神川町大字新里字東北原863-2

関係会社

株式会社上武(碎石砕砂の製造販売、建設廃材等の中間処理)

代表取締役社長 寺井 淳
〒369-1601 埼玉県秩父郡皆野町大字金沢3085-1
TEL(0494)62-1321

朝日ビジネスサポート株式会社(業務請負・人材派遣)

代表取締役社長 佐藤 真
〒367-0301 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222
TEL(0274)52-6411

投資家情報

2018年6月末現在

株式の状況 2018年3月末現在

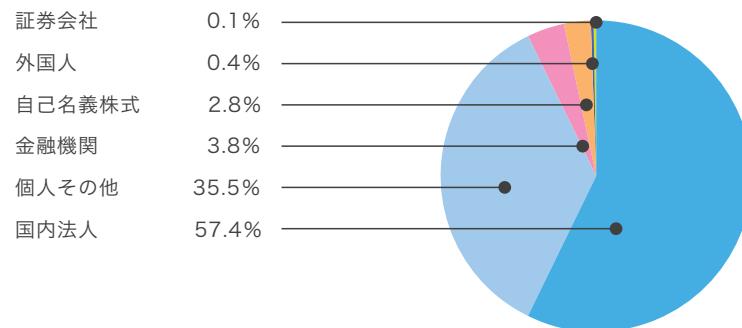
上場市場 東京証券取引所JASDAQ
 証券コード 5456
 株式 発行可能株式総数 24,000,000株
 発行済株式総数（自己株式を含む） 7,200,000株
 株主総数 7,776名

■大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
阪和興業株式会社	600,000	8.6
三井物産株式会社	600,000	8.6
アサガミ株式会社	522,000	7.5
片倉コープアグリ株式会社	300,000	4.3
農林中央金庫	210,000	3.0
東京鐵鋼株式会社	200,000	2.9
日本マタイ株式会社	181,000	2.6
カネヒラ鉄鋼株式会社	180,000	2.6
伊藤忠丸紅住商テクノスチール株式会社	180,000	2.6
株式会社クレディセゾン	134,700	1.9

※ 持株比率については、自己株式（200,000株）を控除して計算しています。
 また、小数点第2位を四捨五入して表示しています。

■株式分布



配当金について

当社の配当方針は、連結業績および当社の資金需要、財政状態を総合的に勘案したうえ、安定した利益還元を基本として、株主のみなさまへの利益還元を図りたいと考えております。

なお、2017年度については、損失を計上したことに加え、企業価値向上に向けての事業投資を勘案し、期末配当を無配とさせていただきました。

配当金

	2015年度	2016年度	2017年度
中間	0円	10円	10円
期末	40円*	20円	0円
年間配当金	40円*	30円	10円

*2015年度期末配当金内訳：普通配当30円、記念配当10円

株主優待制度のご案内

当社では、通常の株主優待に加え、長期保有株主優待を行っております。

持株数	優待内容	
	通常株主優待	長期保有株主優待 (1年以上保有の株主様)※
100株以上 200株未満	お米券(4枚)	クオカード(500円分)
200株以上 300株未満	お米券(8枚)	クオカード(1,000円分)
300株以上 500株未満	お米券(12枚)	クオカード(1,500円分)
500株以上	お米券(16枚)	クオカード(2,000円分)

※ 株主番号が変更になった場合は継続保有となりません。(以下の場合など)
 ①取り扱い証券会社の変更 ②全所有株式売却後の買い戻し
 ③証券会社の貸株サービスの利用 ④相続などによる株式名義人の変更

株主施設見学会

株主のみなさまに当社事業への理解を深めていただくことを目的に、2016年度より施設見学会を行っています。年2回(春・秋)の農場見学会からスタートし、2017年度秋からはこれに加え、鉄鋼と肥料の工場見学会も実施しています。

当社からの情報発信の場であると同時に、役員と株主様の自由な意見交換の場として、今後も定期的を開催したいと考えています。





編集方針

当レポートは、朝日工業グループ（朝日工業および関係会社）の事業活動、財務情報、環境活動、社会貢献活動をみなさまにわかりやすく報告することを目的として編集しております。

対象組織

朝日工業株式会社
株式会社上武
朝日ビジネスサポート株式会社
Johnson Asahi Pty. Ltd.
萊陽龍大朝日農業科技有限公司

対象期間

2017年4月1日～2018年3月31日
(※一部、上記期間以外の内容も含まれます。)
発行年月 2018年7月
前回発行 2017年7月
次回発行予定 2019年7月

参考ガイドライン

・GRI(Global Reporting Initiative)の
「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン 第4版(G4)」
・環境省の「環境報告書ガイドライン」(2012年度版)

ホームページでの開示

<http://www.asahi-kg.co.jp/csr/>



お問い合わせ先

〒170-0013
東京都豊島区東池袋3-23-5 Daiwa東池袋ビル
朝日工業株式会社 管理本部 経営企画部 広報課
TEL:03-3987-0283 メールアドレス:ir@asahi-kg.co.jp